

ほほえみ

第31号 2014年8月発行



独立行政法人 国立病院機構
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1
TEL (0767) 53-1890 (代)
FAX (0767) 53-5771
ホームページ <http://www.nanao-hosp.jp/>



「六保納涼祭」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

目次

着任のご挨拶	2
言語聴覚療法開始のお知らせ	3
ふれあいイベントを終えて	4
第6回西湊地区「健康教室」を開催して	5

着任のご挨拶



神経内科医長 森永章義

平成26年4月1日より神経内科医長兼リハビリテーション科医長として勤務させていただいております森永章義と申します。

神経内科では脳梗塞のような脳血管障害、パーキンソン病・進行性核上性麻痺・筋萎縮性側索硬化症などの神経難病に加えて、アルツハイマー病に代表されるような認知症の診断・加療もしています。私も神経内科専門医・指導医であると同時に認知症専門医・指導医でもあります。

認知症とは「脳の細胞の働きがわるくなったためにさまざまな障害がおこり、日常生活に支障をきたした状態」を指し、その代表的な症状が『もの忘れ』です。認知症の診断ではまず、『もの忘れ』などが加齢などによる『正常なもの忘れ』なのか、『病的なもの忘れ』なのかをまず判断します。そのうえで、『病的なもの忘れ』の場合は十分な問診と必要な検査をし、原因を特定していきます。認知症の原因疾患にはアルツハイマー病に代表されるような根治できないもの以外に正常圧水頭症や甲状腺機能低下症などのように根本的治療が可能かもしれないものも含まれています。

2010年の厚生労働省の調査では65歳以上の日本人の約460万人が認知症を発症しており、その予備軍(軽いもの忘れがある方)がさらに400万人いるとされています。つまり65歳以上の4人に1人が認知症およびその予備軍ということになります。頼まれたことを忘れてしまう、約束を忘れる、物をすぐなくしてしまう、同じものばかり買ってくる、食事の内容が毎日同じになった、服装などに無頓着になった、薬が大量に余るようになった、病院に行く日を間違えるようになったなど以前と様子が変わったことはありませんか。これらは『病的なもの忘れ』の可能性ががあります。そのような場合にはお近くの神経内科へ相談してみたらよいかもしれません。



言語聴覚療法開始のお知らせ

主任言語聴覚士 木田 章

言語聴覚士が勤務し始めました！

今年4月より、リハビリテーション科に男女2名（木田、金沢）の言語聴覚士が加わりました。言語聴覚士とは『ことばや聞こえなど、人間のコミュニケーションを支える機能に生じた問題を抱える乳幼児から高齢者を支援する専門職』です。また、話すことと食事することには身体の共通した部分が使われることが多いため、食べたり飲み込んだりすること（摂食・嚥下）に問題を持つ方の支援も行っています。これらの方々に対して評価（観察や検査）を行い、その結果に基づいた指導・訓練、環境調整などを関連職種と連携を取りながら行うことで、コミュニケーションや食事面から豊かな生活が送れるよう支援するのが言語聴覚士の仕事になります。

摂食・嚥下のリハビリテーションに力を入れています！

入院や外来の神経筋難病や重症心身障害児・者の方々に対して、主に摂食・嚥下や発音を中心とした言語聴覚療法を行っています。特に摂食・嚥下面の問題は低栄養や脱水、窒息や感染症など、命の危機に結びつく事態を招くこともあります。私たちはこうした状況に陥らないよう細心の注意を払いながら“口から食べて味わう楽しみや喜び”の実現に向けて尽力していきたいと考えています。心強い味方として、嚥下造影検査（VF）が関係職種の協力のもと6月よりスタートしています。今後さらに嚥下内視鏡検査（VE）も行っていきたいと思っています。

最後に！

七尾病院の新しい魅力となるよう頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



ふれあいイベントを終えて

副看護師長 大澤 幸江

5月13日(火)10時～12時、どんたくベイモール店前にて、ふれあいイベントを開かせて頂きました。晴天ではありませんでしたが、風が強く少し肌寒い中、約60名の方が参加して下さいました。健康チェックのコーナーでは、血圧測定、血糖測定、脂肪測定、血管年齢測定、そして一番の目玉となっている肺年齢測定を行いました。去年は、肺年齢測定器が1台だったため、かなりお待たせしてしまいましたが、今年は2台準備し、多くの皆さんに検査を受けていただくことができました。また、藤村院長による健康相談や浅井栄養管理室長による栄養相談も人気があり、時間ぎりぎりまで熱心にお話をされる方がおられました。

参加して下さいました方の中には、「毎年来とるんや～、楽しみにしとったわ」「七尾病院はいつも通とるげん」「七尾病院の人はみんな優しいし、いいね～」「血管年齢は去年より若なっただわ～」など、笑顔と心温まるお言葉をたくさん聞かせていただきました。日頃、病院内で働いている私にとって、地域の皆さんと直接触れ合いお話することができ、看護師になって良かったと実感できた1日となりました。

イベントに来て下さった西湊地区の皆さんをはじめ、ポスターやチラシ等でイベントを知り来て下さった方、買い物をする前に寄って下さった方々に感謝を申し上げます。

私達、七尾病院職員一同、今後もふれあいイベントをはじめ、出前講座などをとおり地域の皆さんの医療・看護に貢献できるよう努めてまいります。



第6回西湊地区「健康教室」を開催して

医療社会事業専門員 宮原 千夏子

平成26年7月12日(土)、看護師と臨床検査技師等による酸素飽和度、血圧、血糖値、体脂肪、血管年齢、肺機能測定健康チェックが始まり、医師による健康相談を行いました。その後、西湊公民館2階集会室において、健康教室が開催されました。当日は、西湊地区健康まちづくり推進員の声かけや地区広報誌をご覧になりお越し頂いた、たくさんの方々が参加されました。

第1演題は、藤村院長による「息切れ:呼吸困難」です。労作時呼吸困難の重症度区分(Hugh-Jones分類の日本人用改変)をもとに軽症の「坂道、階段の昇降での息切れ」から重症の「休みながらでなければ50m以上歩けないという近道での息切れ」があることがわかりました。息切れの原因としては、呼吸器疾患である上気道疾患や気管支・肺疾患、心臓疾患、貧血、心因性疾患、代謝性疾患、神経筋疾患、ガス中毒や酸素不足が挙げられます。各疾患において、有名人の代表者を紹介しながら説明することで会場からは、「誰でも罹る可能性のある疾患だと分かった」という声が聞かれて、身近な疾患であることの理解につながりました。外界と接しているのが肺であり、肺と心臓による呼吸のしくみには流れがあります。呼吸器系のどこかで不具合があると息切れが起きます。息切れが年齢やタバコのせいだけではなく、原因を見つけ出し、治療することで息切れが楽になることがわかりました。当院の呼吸器内科は現在毎日外来診療が可能となっています。是非ご来院下さい。



第2演題は、松田主任理学療法士による「転倒予防のススメ」です。転倒予防はなぜ必要か、原因、姿勢について、転びにくい体を作ることに关して実際の体操を交えながら説明されました。厚生労働省の国民生活基礎調査2010年版によると、全国においては、骨折・転倒は介護が必要になった要因の1割程度を占めます。七尾市の広報誌『七尾ごころ6月号』によると、七尾市で平成25年度に新たに介護が必要になった人の原因疾患をみると、「転倒・骨折」や「腰痛症」、「関節疾患」などの整形外科関係の疾患が4人に1人と認知症よりも多くなっています。講演中に行った片あし立ちテストでは、左右10秒ずつの練習の後に60秒間数えた本番を行いました。中高年の参加者が多かったが、皆さん予想以上に計測タイムが伸びていたため、足腰が強く安定している方、日頃から体幹のバランスに関心の高い方が多く集まっていたことがわかりました。運動時の注意点としては、①食直後の運動は避ける②十分な水分補給③睡眠不足・体調不良の時は無理しない(感冒・胸痛・頭痛・めまいなど)④運動中に呼吸を止めない⑤どこかに痛みが出るなどの悪化した場合は無理しない⑥生活習慣病などの病気のある方や疑問のある方はかかりつけ医に相談することです。最後に、運動を続けるコツとして、各自が生活の中に取り入れること、運動中や直後は疲れがあっても次の日に疲れが残らない程度に初めは軽くすること、週に2～3回でも回数は各自のペースでよいという説明がありました。

健康チェック時の看護師等によるコメントや医師の健康相談に乗るコーナーでは、「親身に話を聞いてもらえた」、「最近気になる症状を質問できた」という言葉が聞かれ、全体を通しては、「講演だけでなく、運動もあったので、身体を伸ばすこともできて、目が覚めて最後まで聞けました」、「健康チェックも講演も大変参考になりました」という参加された地域住民の方からの様々な感想が聞かれました。

当院スタッフに健康相談をしている場面や、講演を積極的に受講される様子からは、日頃から健康づくりに対する興味・関心が高いことが伝わってきました。

看護師募集!

入院から在宅までの
看護を一緒に行いましょう!

*しばらく医療の現場から
離れていた方への職場復
帰を支援するための研修
を行っています。ご利用
下さい!

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構七尾病院 看護課
(0767) 53-1890 (内線1104)



外来診療担当医表

外来受付時間 8:30~16:00

診療時間 8:30~17:00

	月	火	水	木	金
内科	横地	橋井	陳	藤村 森永	堂下
外科				土島	
呼吸器科	藤村 (PM)	藤村 (PM)	大谷 (PM)	藤村 (AM)	堂下
ペインクリニック			松島 (AM)		
神経内科	横地	横地	横地	森永	森永
小児科	交代制 (AM)		岡田 (AM) 松島 (PM)		松島
消化器科	陳	陳	陳	陳	陳
皮膚科	島田 (AM)	藤村啓	藤村啓 (AM)		牛上 (AM)
循環器科					上野 (AM)

※小児期の予防接種はじめ各種予防接種を行なっております。

病院概要

■医療法病床 240床
(一般病床/190床、結核病床50床)

■標榜診療科

内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、
ペインクリニック内科、外科、小児科、皮膚科、
リハビリテーション科



案内図



JR七尾線「七尾駅」下車
→北鉄バス【和倉温泉行】にて
(3.7km./約15分)七尾病院前下車
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで
病院バスの送迎あり



編集後記

今年度よりホームページ小委員会が発足し、見やすいページ作りや最新情報の配信など行っています。みなさんも是非当院ホームページにアクセスしてみてください。

医療社会事業専門員 上田 竜也